愛媛県

7月13日～27日（坊っちゃんスタジアムほか）

各所に潜む怪物候補生が大混戦を創出！最後の夏に未来を切り拓く逸材は誰だ？

直近の甲子園出場校	
12夏	今治西
13春	済美
13夏	済美
14春	今治西
14夏	小松
15春	松山東／今治西
15夏	今治西
16春	—

ドラフト関連度

総合	野手	投手
B	C	B

投手編

アドゥワに続く「突き抜け」は？

愛媛の投手で突き抜けた存在は2人。1人目は大型右腕・アドゥワ誠（松山聖陵）。この春はフォーム改造に着手し、悩みながらも最速145キロをマークした。

2人目は小さなエース・馬越康輔（小松）。165センチの身長ながら、球速は140キロに達し、秋ベスト4進出の屋台骨となった。

2人に続く「突き抜け」を望みたい投手が県内にはまだまだ存在する。右では昨秋、今治西のエースとして県大会優勝に貢献した2年生・金本遼。昨秋は優勝投手になったがコントロールに気をするあまり、球速も130キロを切り、春の公式戦では背番号「11」。しかし、4月松の練習試合でアドゥワと投げ合った際には最速136キロを記録。腕を振り球威で抑えていく意識が感じられた。

左では1年時から澤田勝彦監督の高い期待を受けていた渡邉潤（北条）。練習試合では最速139キロまで球速を伸ばすも公式戦では、持ち味の柔らかさが影を潜める。

済美の左のエース・菊池怜雄は春の大会では四球から崩れる場面も。右の和合寛征（済美）に加え、西条の二枚看板である石丸慶次郎や森實麟太郎も課題を残す。夏こそはベストピッチを見せたい。

台湾王者を完封した賢者

賢者の道を着々と歩むのは川之江の糸川亮太。昨年12月には愛媛県選抜に選ばれ、台湾遠征で台湾王者の高苑高級工商を5安打完封。春の大会では七色の変化球を駆使して抜群の安定感を見せ、川之江5年ぶりの春季県大会優勝の原動力となった。

田中蓮（新田）や右サイド・上谷和大（今治北）、そして松山商の2年生エース・山本寛大らも糸川と同系の投球を目指すべきところ。新たな賢者の出現はあるか、技巧派たちの夏にも注目したい。

注目投手

糸川亮太（川之江）

野手編

怪物候補生、最後の夏へ

今年の愛媛県野手陣は例年以上にスケールの大きい選手やスピード感あふれる選手が目立っている。

すでに公式戦で結果を残しているのは、泉政斗、眞田康弘、2年生の黒川貴章、工藤耀介に守備職人の三上幹太が構成する「新田クインテッド」。強打者では懐の深い長打が持ち味の日野智也（川之江）や大本将吾（帝京五）、高校通算30発に到達しようとしている山岡昂平（伯方）、坊っちゃんスタジアムでの一発を含め高校通算20発を超えている丹翔也（東温）も見逃せない。さらに堀尾晃生（松山商）もツボにはまった時の飛距離は素晴らしい。

今治西勢も杉野彰彦のスピード、髙尾陽輔のパワーに、山内敦也の「読み」は特筆すべきもの。松山工の石崎真継の肩や、アドゥワ誠のリードと同時に向上してきた稲葉智也（松山聖陵）の二塁送球、1番・大村弘稀（松山聖陵）のスプレーヒットと枚挙に暇がない。

あと半歩でセンバツを逃し、捲土重来を期す済美では、主将の和田蓮次郎やチャンスに強い三浦俊哉に注目。特に怪物捕手・小山一樹はドラフトも目指せるプロスペクト。サイズ感と半年で17発の長打力は文句なし。「夏まではチャレンジさせる」と乗松征記監督。インサイドワーク向上でプロ入りへ勝負をかける。

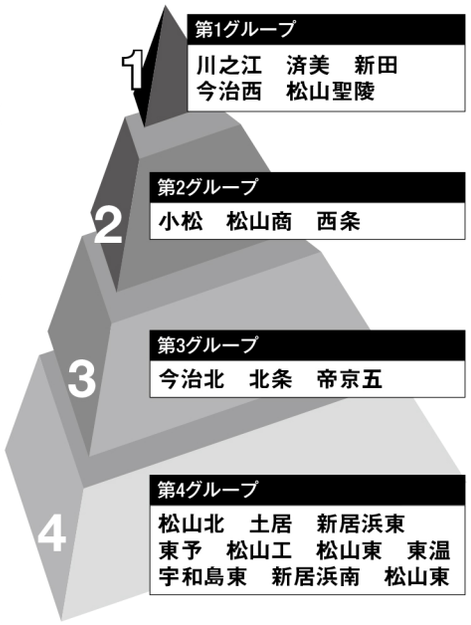
注目野手

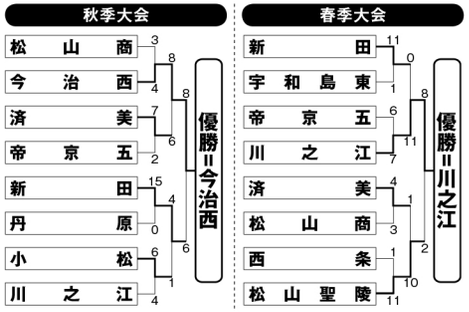
小山一樹（済美）

愛媛県の主な注目選手

守備	名前	所属	学年	身長	体重	投打	評価	コメント
投手	金本　遼	今治西	2	176	67	右右	C	スリークオーターからストレートにスライダー。えひめ国体年代の中心
投手	糸川　亮太	川之江	3	170	72	右右	C+	七色変化球で台湾王者完封。球速増せば山岡泰輔（東京ガス）の後継者
投手	馬越　康輔	小松	3	165	68	右左	C	無尽蔵のスタミナと魂の最速140キロストレートで小松を牽引する
投手	渡邉　潤	北条	3	179	66	左左	C	腕振りのよさに根気強く加えたパワーで最速139キロ。公式戦で結果を
投手	アドゥワ誠	松山聖陵	3	196	83	右右	B+	吸収力の高さで身体も球速もメキメキと。最速145キロはあくまで通過点
捕手	小山　一樹	済美	3	180	90	右右	B	長打力は高校トップレベル。夏にはリード向上でプロへの扉を開ける
外野手	杉野　彰彦	今治西	3	173	67	右右	C	右打者で4秒0台を出せる一塁駆け抜け。ダッシュ力が目を引く中堅手
外野手	細見優己也	帝京五	3	167	58	左左	C	サイズと長打力は大本将吾もバットコントロールでは彼の方が一段上
外野手	眞田　康弘	新田	3	174	68	右左	C	走攻守のバランスに優れた中堅手。愛媛県選抜台湾遠征では超美技も
外野手	山岡　昂平	伯方	3	178	73	右右	C+	秋山幸二の現役時代思わせるジェットミサイル弾道で本塁打量産

地区勢力ピラミッド





大会展望　解析不能、超伏兵の出現もありうる!?

シード4校は川之江・済美・新田・今治西の順。だが、実際は第4グループまで優勝の可能性を秘める大混戦。ドラフト注目右腕・アドゥワ誠はじめ、投打にタレントがいる松山聖陵を筆頭に、一昨年の代表校・小松や実力者ぞろいの西条、チームで戦う意識が高い松山商などのノーシード校も力の差は全くない。さらに6月26日に開催される組み合わせ抽選会の結果次第では、1年生36人で臨む聖カタリナのような「超伏兵」躍進も十二分ありうる。

帝京五と聖カタリナ、新指揮官の抱負

帝京五に4月から赴任した小林昭則監督。「今回は長期ビジョンに基づいた話だったので受けることにした」と本人。かつて帝京（東東京）の助監督として、山崎康晃（DeNA）や原口文仁（阪神）を育てたように練習からも個性を大事にする方針が見て取れる。また、4月から新加盟した聖カタリナを率いるのは小松（石川）などで指揮を執った越智良平監督。現役時代は宇和島東で華麗な遊撃手として鳴らし、早稲田大では主将を務めた。初めての夏は「打って勝つ」と意気込む。